

3 リンカーンコンチネンタル

楽しくリサイクル 意味ないものを 意味あるものへ

私たちが提案するのは「東京オリンピックで出たゴミを楽しくリサイクルする」仕組みです。東京オリンピックの期間中は世界中から多くの人が来るためその分大量のゴミが排出されます。オリンピック期間中にゴミを集めるという特に意味のないと思われるような普通のことをやり、オリンピック後に集めたゴミでオブジェを作りそれを意味のあるものにするというものです。そのために、加工しやすい素材で装飾に使いやすそうな色を使った製品をオリンピックの記念品として販売し、キャンペーン専用のゴミ箱を用意することを考えました。

オブジェがもたらす効果

- 集客効果がある
- 大会中に出た
ゴミの量が目でわかる
- 見ていて楽しい

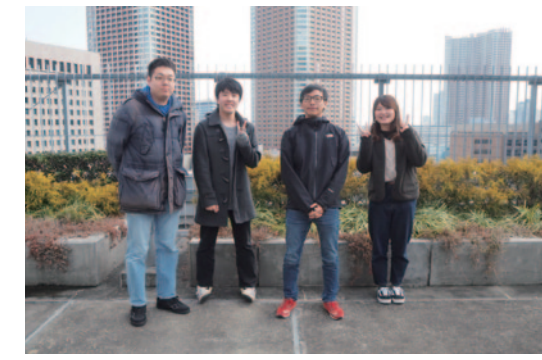


プロジェクトメンバー

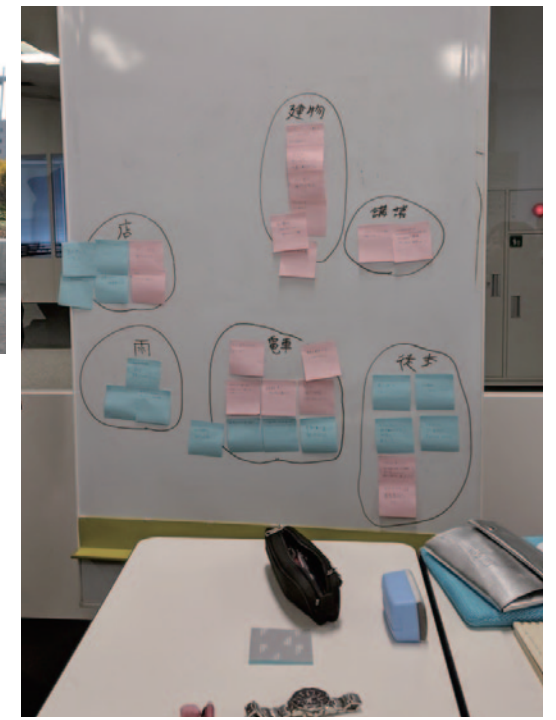
- | | |
|------------------|-------|
| 芝浦工業大学建築学部 1年 | 内山 耀介 |
| 芝浦工業大学デザイン工学部 1年 | 伊藤 健 |
| 香川大学創造経済学部 2年 | 山崎 若葉 |
| 香川大学工学部 4年 | 三村 悠祐 |

Insight 意味を感じていなかったことが急に

私たちが今回、いろんなところを視察する中で「日本科学未来館にあった地球儀が面白い」という意見になりました。そして、何気なく見ていた地球儀も見方や感じ方が人によってそれぞれ違うことに気づきました。例えば、地球の中に人間は存在しているけど日本科学未来館の地球儀は地球の周りを人間が歩いて周るというあり得ない体験を実現しています。でもあり得ない体験ですが、将来的には人間が宇宙の周りをまわることが可能になることを表しているかもしれないと気づいたり、日本科学未来科学館は上の階は宇宙が主で、下の階に連れて未来に繋がっているかもしれないということにも気づきました。「地球儀」という「普段何も感じていないこと」であっても、視点を変えた瞬間に、いろんな気づきを与えてくれる。この点に我々はフォーカスしようと思いました。



- 希望した五輪入場者の数だけ苗を植えて植林
- 間違ったところに並ぶと音でルールを示す
- 電車の床を斜めにする
- 満員にならないと冷房のつかない電車



Outcomes ロンドンの事例に学ぶ

意味がないものから意味のあるものになった例として、ロンドンにおいて「タバコの吸い殻入れを投票箱に見立てて、あらゆるジャンルのトピックスに投票させる」というものがあります。これによって路上のゴミは約半分になりました。「このアイデアを東京オリンピックにも取り入れよう」というのが、私たちがたどり着いた結論です。仕組みとしては、「そもそもゴミでオブジェを作ります」という大前提を共有することで、ゴミ捨てそのものをイベント化するという点にポイントがあります。イメージとしては、瀬戸内芸術祭のように多くの外国人が訪れるような場所を作ること、そこに「新たな発見」の機会を作り、それを集客効果として狙おうというものです。オリンピック中は意味のないように思える行動がオリンピック後に多くの可能性を生み出せたかと思っています。